

## ☆亀山市立関中学校区の実践

### ◆事業概要



#### 1 中学校区の現状と課題

関中学校区には、加太小学校・関小学校・関中学校の3校があります。これまで各校は、コミュニティースクールや、地域住民を会長とする教育協議会等によって、人権教育を学校教育の中心に据えて子どもを支援する取組を進めてきました。

しかしながら、子どもたちの中には、安心して自分らしさを出せなかったり、逆に自分の思いや考えが強すぎて、相手の立場や思いに寄りそうことができなかつたりする子がいます。そこで、関中学校区子ども支援ネットワークでは、係わる大人が子どもたちへの対応を常に情報共有することで、一貫性を保ちながら、支援のためのスキルアップを図りました。

#### 2 課題解決のための主な取組

##### (1) 農業体験による支援

地域の方が所有する田で、PTAとともに農業体験に取り組みました。体験活動を通じて、係わる大人が子どもたち一人ひとりの個性を大事にしながら、子どもたちを丸ごと認めていけるように努めました。

地域のある人は、「朝の登校指導やボランティア活動を通じて、平素から子どもたちを知っていたが、稲作を通じて新たな一面を見出すことができた」と話してくれました。また、あえて苦手なことにも「まずはやってみようよ」と伝えることを大切にしてきました。その甲斐もあり、収穫で、籾を割って中の米を見る子どもたちの表情から、実体験というプロセスの大切さを確認することができました。



稲の収穫

##### (2) 学習支援

小学校では、地域住民のボランティアが放課後の児童の学習支援を行いました。この「放課後いきいき教室」と称した活動では、児童が宿題や図書等を持ち込み、自発的に学習したり、異学年同士が教え合ったりすることを大切にしてきました。

中学校では、夏季休業中から2学期のはじめにかけて、地元出身の大学生を含むボランティアが学習支援を行いました。生徒にとっては、前向きに学習に取り組む機会となりました。

##### (3) 読み聞かせによる支援

地域のボランティアが、小学校1～3年生の各クラスに入り読み聞かせを行いました。読み聞かせの本は、学習内容に係わるものや名著として受け継がれているものを中心に、子どもの顔を思い浮かべながら選択しました。

ある児童は、周囲とのコミュニケーションが難しく、落ち着いて学習に入れないことが多かったのですが、読み聞かせの機会を重ねていく中で次第に身を乗り出し、物語にじっと耳を傾ける様子が見られるようになりました。

また、図書環境の整備では、図書室に人権に係わる図書のスペースを設け、各校共通の円形型本棚を作成し、それぞれに設置をしました。



人権に係る図書スペース

### ◆実践を振り返って

地域住民による登下校時の見守りや学校教育活動等への積極的な係わりにより、学校・家庭・地域のお互いが顔なじみとなる関係を築くことができました。このことが、地域での子育てや児童生徒への支援を活性化する風土を醸成してきたといえます。

今後も地域連携を継続していくことで、子どもたちの自尊感情や学習意欲の向上を図っていきたいと考えています。同時に、係わる大人の有用感も一層高まっていくことを期待しています。さらに、教育的に不利な環境のもとにある子どもへの働きかけを軸に、子どもたちの生活背景を把握し、効果的な支援を行っていきたいと考えています。